

## 「1950年代教育史」研究部会（第42回）

日時：2020年1月24日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員  
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）大島宏研究員報告：「山梨県産業教育総合計画と高等学校」

- ◆1955年12月、山梨県地方産業教育審議会によって検討・討議され刊行された『山梨県産業教育総合計画（一）』：高等学校全日制の入学定員、設置課程、学校配置
  - ・山梨県の農業・工業・商業の現状分析に基づく高校の産業教育計画
    - 農業：零細農家→兼業農家の増加、低生産の中での二・三男の人口過剰→高校進学希望増
    - 工業：小規模（中心は紡績）
    - 商業：小売（個人商店）→観光に重点
  - ・高校の入学傾向は、工・商が増加（普通課程・家庭課程は低下）  
卒業後は第二次・第三次産業への就職増加
  - ・『総合計画』は全日制中心の計画
    - 新設校は分校が独立校へ転換
    - 分校（定時制）に、増加傾向の工・商課程はほとんどなし→二・三男対策にならない
    - 定時制が昼間制のため、通える生徒は定時制ではなく全日制へ行く→取り残される分校？

（2）鳥居和代研究員報告：紀要原稿「第2節 千葉県における子どもの長期欠席状況とその取り組み」の1、2」の検討

- ◆紀要の担当章の構成案修正
- ◆「1. 千葉県の公立小学校・中学校の長期欠席児童生徒調査」
  - ・全国と千葉県の長欠調査の比較
  - ・保護者の職業別では水産業と行商・露天商が突出して多い（とくに中学校）
- 「2. 千葉県における長期欠席の地域的特徴」
  - ・1952年の富田竹三郎による研究調査の結果
  - ・農村部では断続欠席が多く、臨海の漁町村では長期に及ぶ連続欠席が常態化  
年少労働によるもの、さらには漁町村の“非近代性”によるものとの見方  
→富田の調査では、九十九里町を例で挙げているが、米軍の高射砲演習による漁獲高の減少や漁民生活の変化には一切触れていない

- ・次回研究会は、2020年2月21日（金）13:00～。西山研究員、米田研究員
- ・次回以降 2020年3月30日（月）13:00～